

## 令和4年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

「明るく、たくましく、心爽やかな」国際社会に貢献できる人材を育成し、地域に信頼され、誇りとされる学校をめざす。

—アクション、シンキング、チームワークですべての子供たちの可能性を最大限に引き出します—

1. 夢・目標を主体的に見つけ、進路実現に向けて積極的に取り組む生徒を育てる。
2. 知的好奇心が旺盛であり、自ら考え学ぶ姿勢を持った生徒を育てる。
3. 集団の中での義務と責任を認識し、集団の一員として貢献する意欲のある生徒を育てる。
4. 他人の立場や周りの人の気持ちを考え、行動できる生徒を育てる。

## 2 中期的目標

## 1. 確かな学力の育成

(1) 「主体的・対話的・深い学び」を追究し新しい時代に対応できる「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性等」の育成に取り組む。

ア 学校としての「生徒に育成したい資質・能力」、「めざすべき生徒像」について、全教員で共有し、授業を軸にその実現へ向かう。

※学校に期待される社会的役割【スクール・ミッション】やそれに基づく【スクール・ポリシー】(グラディエーション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー)の策定に向けた検討に着手する。

イ 学力向上委員会を中心に相互授業観察、研究授業などの計画的実施、授業アンケートの効果的活用など、学力向上に組織的に取り組む。又、ICT機器を効果的に取り入れ個別最適な学びと協同的な学び、一斉学習を併存的に展開するなど学びの深化を図る。

※学校教育自己診断(生徒)における授業満足度の肯定的回答(R1 58%、R2 68% R3 74%)を令和6年度まで65%以上を維持する。

ウ 新学習指導要領に対応した特色ある教育課程を追究する。

## 2. 夢と希望を持ち、進路実現に積極的に取り組む生徒の育成

(1) 生徒の希望する進路の実現に向けて、計画的な進路指導体制を確立する。

ア 3年間を通じた継続的かつ計画的に進路指導に取り組み、大学・短大、専門学校および職業などについてキャリア教育を行う。

イ 3年間を通じた計画的な講習の実施により、早期からキャリア形成を見通し努力させる。

※実力考査の結果の分析を行い、学習支援クラウドサービスなどを活用し継続的な進路指導を行う。

※学校教育自己診断(生徒)における進路に関する情報提供の肯定的回答(R1 74%、R2 82% R3 87%)を令和6年度まで80%以上を維持する。

(2) 各授業、HR、「総合的な探究(学習)の時間」や学校行事などを通じ、探究的に学び表現力を向上させる機会を確保しキャリア発達を促す。

(3) グローバル人材の育成

ア 国際関係機関との連携や海外の学校との友好交流、SDGsの視点を踏まえた授業やHR、「総合的な探究(学習)の時間」、特別活動等の実施を奨励し、国際理解教育を推進する。

※学校教育自己診断(生徒)における「授業や行事で国際理解について学ぶ機会がある」の肯定的回答を(R2 57% R3 63%)令和6年度まで60%以上を維持する。

## 3. 安全安心で魅力のある学校づくり

(1) 規範意識を醸成する等、個々の生徒への支援体制を充実させ社会構成員としての自覚を促す。

ア 朝の職員連絡会やSHRを通して、生徒の状況を把握、教員間で共有し、望ましい生活習慣、生活規範の確立に向けた指導を行う。

イ 関係機関との連携にて校内支援体制を充実させ、すべての生徒の学びと育ちを支援する。

ウ 互いの違いを認め合い、「ともに生きる」精神を育成し、学校に来るのが楽しいと感じる環境を作る。

※学校教育自己診断(生徒)における人権について学ぶ機会の肯定的回答(R1 74%、R2 86%、R3 89%)を令和6年度まで80%以上を維持する。

※1月末段階での遅刻(R1 3,676件、R2 2,381件、R3 1,430件)を令和6年度まで2,000件以下を維持する。

※学校教育自己診断(生徒)における「先生は悩みごとや相談ごとを聞いてくれる」の肯定的回答(R1 70%、R2 77%、R3 82%)を令和6年度まで75%以上を維持する。

※学校教育自己診断(生徒)における「学校へ行くのが楽しい」の肯定的回答(R1 74%、R2 77%、R3 80%)を令和6年度までには80%程度を維持する。

(2) 特別活動や生徒会活動を活性化させ生徒の自己肯定感を醸成するとともに、集団や学校への帰属意識を高める。

ア 部活動や文化祭、体育祭などの生徒の自主的な活動を活性化させるとともに協働にて取り組む内容を充実させる。

※学校教育自己診断(生徒)における「文化祭は楽しく行えるよう工夫されている」の肯定的回答(R1 63%、R2 75% R3 82%)を令和6年度まで70%以上を維持する。

※学校教育自己診断(生徒)における「体育祭は楽しく行えるよう工夫されている」の肯定的回答(R1 49%、R2 59%、R3 78%)を令和6年度まで60%以上を維持する。

※生徒向け修学旅行アンケートにおける満足度の肯定的回答(R1 93%、R2 95% R3 97%)を令和6年度まで90%以上を維持する。

(3) 生徒が安全に安心して学校生活を送ることができるよう保護者との連携および環境の整備を行う。

ア 保護者との連絡を密にし、生徒が安全・安心に学校生活を送られるようにする。

イ 美化活動等の環境整備

ウ 「防犯及び防災計画」を点検し、天災や火災、侵入者などの危機管理体制を充実させる。また、保健所や学校医との連携を深め、新型コロナウイルス感染症に係る対応の充実を図る。

※学校教育自己診断(保護者)における「家庭への連絡や意思疎通」(R1 59%、R2 75% R3 79%)を令和6年度まで75%以上を維持する。

※学校教育自己診断(職員)における「事故・事件等に迅速・適切に対応」(R1 82%、R2 88% R3 70%)を令和6年度まで85%以上を維持する。

## 4. 地域・保護者と連携した学校づくり

(1) 広報活動を活性化し、本校の取り組みを中学生や保護者、地域に発信する。

ア Webページおよびブログを定期的に更新し、本校の取り組みを地域・保護者に発信する。

イ 本校で実施する学校説明会をさらに充実させると共に、外部の学校説明会などにも積極的に参加する。

※学習支援クラウドサービス登録者(R1 66%、R2 100% R3 100%)の在籍者に対する割合を100%とする。

(2) 地域との連携に取り組む

ア KEYS(貝塚警察署との連携した活動)等のボランティア活動を継続発展させる。

イ 地域の学校等との連携を活発に行う。

(3) 保護者向け進路説明会の実施および保護者への進路情報の提供

ア 保護者向け進路説明会の内容を充実させ、保護者が参加しやすい説明会を企画、実施すると共に、進路情報を積極的に発信する。

※学校教育自己診断(保護者)における進路に関しての情報提供(R1 55%、R2 57%、R3 66%)を令和6年度まで60%以上を維持する。

## 5. 教職員の資質向上と意識改革

(1) 個々の教員が学校運営に参加する意識をもって業務にあたる。

## 府立貝塚南高等学校

- ア 運営委員会が中心となり同僚性を高め、校内での情報共有や意思統一を図り組織目標の達成を行う。
- イ ICT 機器を効率的に活用し、さまざまなデータの共有・情報共有を行うと共に、事務作業、会議運営の効率化等を図り、生徒と向き合う時間を確保する。
- (2) 校内での教職員研修を積極的に行うと共に、外部で実施される研修等の内容を校内で共有する。
- ア 教職員の資質向上をめざした研修を計画的に実施する。
- イ 校外での研修などにより、積極的に情報を収集するとともに校内での周知を行う。
- (3) 働き方改革の取組みを行い、職員が生徒と向き合う時間を増やす。
- ア 働きやすい職場環境の整備につとめると共に、風通しがよく、働きがいのある組織作りを進める。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【保護者に関して】※結果の詳細はHPをご覧ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・13項目中9項目において、昨年度より肯定的な回答ポイントを上昇させている。上昇させた主な項目は「子どもは学校へ行くのを楽しみにしている：74→79.1」[学校はテストの得点だけでなくいろいろな面から学習の評価を行っている：66.3→72.5] [学校は教育情報について提供の努力をしている：71.9→72.7] 等である。</li> <li>・「学校は、いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」について、昨年度より肯定的な回答ポイントを上昇させているが「判断できない、よくわからない」が56.6%と高い数値である。該当事例に関係する保護者が少ないことが要因と思われる。</li> <li>・「学校の授業参観や学校行事に参加したことがある」について、昨年度より肯定的な回答ポイントを上昇させているが「全くあてはまらない」が31.8%と高い数値である。主に感染症対策にて制限を施したことが要因と思われる。今後、様々な手段を講じて開かれた学校づくりに努めたい。</li> </ul> <p>【生徒に関して】※結果の詳細はHPをご覧ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・21項目中20項目において、昨年度より肯定的な回答ポイントを上昇させている。本年度は新規で1項目追加されているため実質的にはすべての項目において肯定的な回答ポイントを上昇させている。[学校へ行くのが楽しい：79.6→84.6] [授業が分かりやすい：74.2→82.5] [授業や行事で国際理解について学ぶ機会がある：63.2→82.4] [進路に関する情報が十分提供されている：86.6→92] [先生は、いじめについて私達が困っていることがあれば真剣に対応してくれる：82.7→91.6] [自分の考えをまとめたり発表したりする授業がよくある：77.7→80.9] 等である。</li> <li>・「校舎内外の施設や設備が整備され、清掃がいきとどいている」について否定的な回答が34.2と高い数値である。校舎の一部の老朽化が進んでいることが要因と思われる。今後、関係機関と連携し施設、設備の整備に努めたい。</li> <li>・「学校生活についての先生の指導は納得できる」について否定的な回答が30.3「担任の先生以外にも保健室や相談室等で、気軽に相談することができる先生がいる」について否定的な回答が38とともに高い数値である。今後、生徒理解を更に深め、相談の在り方を工夫する等、更なる改善に努めたい。</li> <li>・「学校図書館の図書などを利用する」について否定的な回答が82.1と高い数値である。情報機器の利用拡大とともに、読書活動が減少している。今後、読書の魅力を伝え、書籍の整理や購入、学校図書館に新たなコーナーを設置する。ビブリオバトルなどの取組みを推奨するなど、学校図書館利用の活性化に努めたい。</li> </ul> <p>【教職員について】※結果の詳細はHPをご覧ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・27項目中17項目において、昨年度より肯定的な回答ポイントを上昇させている。上昇させた主な項目は「教職員間での生徒に関する情報共有ができている：87.9→88.9」「各教科において、教材の精選・工夫を行っている：84.9→91.6」「事故・事件等に迅速、適切に対応できるよう、組織化されている：69.7→77.8」「コンピューター等のICT機器が、各教科の授業などで活用されている：87.9→88.9」等である。</li> <li>・「学校として、部活動の活性化について工夫している」について否定的な割合が52.8と特段に高い数値である。今後、大阪モデルに沿った部活動のありかたについて検証を深めたい。</li> </ul> <p>○診断結果より、総合的に信頼される学校づくりが順調に推進されている。今後、昨年度より肯定的な回答ポイントを下昇させた項目や否定的な割合の多い項目とともに、良好な評価を得た項目についても検証、改善を繰り返し、強みを特色とする等、すべての子ども達の自己実現に向け、更なる学校力の向上に努めたい。</p>	<p>【第1回】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スクール・ミッション、スクール・ポリシーの策定については、与えられた状況の中で生徒を受け入れる為に、どのように策定すればよいかを参考にして策定すればよい。</li> <li>・評価目標については、どんどん目標を高くしていくと、目標を達成することに囚われてしまうので気を付けた方がよい。</li> <li>・生徒がのびのびと育つことが大切。</li> <li>・生徒の主体性を伸ばすために、高校だけで伸ばすことは難しい。中学校と高校で協力する必要がある。</li> <li>・過去3年間の遅刻数が大幅に減っていることがすごい。先生方の指導の成果だと思えます。</li> <li>・貝塚南の良いところとして、教員のこども理解、インクルーシブ教育の観点から合理的配慮をしているということがある。そこをもう少しアピールしてみてもどうか。</li> <li>・指導と評価の一体化を目指さなければいけない。その為にも、中学校と高校で情報共有をしていきましょう。</li> <li>・修学旅行についてはどこに行くのかではなく、何を体験し何を学ぶのかであり、特に事前学習が大切である。</li> </ul> <p>【第2回】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事等についてのアンケートに対して肯定的な回答が多いことは、教員と生徒との関係が良好であると言える。関係が良いときに色々なことに取り組むと良い結果が得られると思う。今は、色々な取組みについて見直すチャンス。</li> <li>・クラブ加入率が63.0%は頼もしい。</li> <li>・総合的な探究の時間について、スクール・ミッション案にあるようにSDGsの取組みをするうえで、企業との連携を取り入れてみてはどうか。</li> <li>・3年生の進路先について、一般、総合型、公募で苦戦しているということなので、心配しています。出口が1番なので引き続きご指導願います。</li> <li>・スクール・ミッション、スクール・ポリシーについて、「看護・医療コースの設置」と入っているが、現在でもコースはあるが、設置している学校は少なく本校の特徴ととらえているため入れており、Well-Being「継続した幸せ」のような意味も学校として問題ないことを伝え、概ね了承をうける。</li> <li>・授業等でのICT活用については、プロジェクタやPCを利用するうえで、生徒の視力(健康面)や部屋の明るさ、照明の利用の仕方などについて、留意してほしい。</li> <li>・保健室の利用について、精神面で12名、保健室を利用しているが、カウンセラーの方との連携を行っていることを伝え、理解を得ている。</li> <li>・3年生のこれからの入試や卒業式等ありますが、コロナに気を付けて乗り越えていってほしい。</li> </ul> <p>【第3回】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断結果のほとんどの項目の数値が上昇し、かなりいい結果が出て良かった。</li> <li>・相互授業参観は教科を越えて行っているのかの質問に対して、本校は行っており、今後ともぜひ積極的に続けてください。</li> <li>・新課程カリキュラムでの3観点で困ったことについて、主体的に学習に取り組む態度の評価が難しいが、発表の機会を増やすなどの工夫を行い対応しているとの回答に対し、中学校では主体的に学習に取り組む態度の評価が高くなりがちなので、ご留意ください。</li> <li>・個別最適な学びを学校として提供するために中高連携していきましょう。</li> <li>・体育館が工事中の中学校への体育館の貸出ありがとうございます。貝塚南の良さが伝わり、今後の志望者数増加につながることを期待しています。</li> <li>・学校教育自己診断の評価で、肯定的な意見が多いのは良いことです。</li> <li>・貝塚市によるカルバシティからの短期留学生の受け入れを今年度行ったので、次の来年度は行く側になるので、ぜひ生徒が参加するような声掛けを行ってほしい。</li> <li>・中学校と高校の連携について良いお話を聞いて良かった。</li> <li>・学校教育自己診断の評価数値が上昇したのは良いことだが、働き方改革より、先生方の健康面について気を付けていただきたい。</li> <li>・学校としての様々な内容における中期・長期目標を考える際に、少子化をどのように乗り越えていくのかを、少し念頭に置いて策定していただきたいと思います。</li> <li>・色々なことをやっているのを中学校の保護者に伝えるような宣伝をぜひ行っていただきたい。地元の生徒をしっかりとためて、志望者数増加させてほしい。</li> </ul> <p>○令和4年度学校評価および令和5年度学校経営計画について承認される。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R3年度値]	自己評価
<p>1 確かな学力の育成</p>	<p>(1) 「主体的・対話的・深い学び」を追究した学力向上 ア 「生徒に育成したい資質・能力」、「めざす授業」の実現に向けて</p> <p>イ 学力向上をめざした取り組み</p> <p>ウ 授業アンケートの効果的活用</p> <p>エ ICT 機器を効率的に活用した授業の研究・実施</p> <p>オ 自学自習の推進</p> <p>カ 図書館の活用と読書活動の推進</p> <p>キ 特色ある教育課程の充実</p>	<p>(1)</p> <p>ア・「生徒に育成したい資質・能力」、「めざすべき生徒像」を全教職員で共有し、授業力の向上を軸に実現に向かう。 ・学力向上委員会等にてスクール・ミッションやスクール・ポリシーの策定に向けた検討に着手する。</p> <p>イ・授業力向上の取組み（研修、相互授業観察、研究授業など）を計画的に実施する。</p> <p>ウ・授業アンケート実施後、「授業アンケート結果分析シート」を活用するなど、各教員が結果を分析し、授業改善に努める。</p> <p>エ・1人1台端末を有効に活用するなど ICT 機器を活用した授業改善について研究を深め実践する。</p> <p>オ・授業を通じて教科・科目の学習への興味、関心を高め、自ら学ぶ姿勢を身に付けさせる。 ・生徒の生活実態を把握し、ICT の活用を促進するなど授業以外の学習時間を確保し、学力の向上を図る。 ・自習室の積極的な活用を推進する。</p> <p>カ・図書室の積極的な活用、図書委員活動を活性化させるなど、「第4次大阪府子ども読書活動推進計画」に沿って読書活動を推進する。</p> <p>キ・新学習指導要領に対応した教育課程の充実を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・授業アンケートの結果平均ポイントを昨年並みとする。[3.22] ・スクール・ミッションやスクール・ポリシーの策定に向けた検討に着手する。</p> <p>イ・教員相互の授業観察を年間延べ100回以上[113回] ・研究授業を年間延べ5回[16回]。</p> <p>ウ・学校教育自己診断(生徒)の「授業が分かりやすい」の肯定率65%以上 [74%]</p> <p>エ・学校教育自己診断(生徒)の「視聴覚教材やICTが効果的に活用されている」の肯定率70%以上 [84%]</p> <p>オ・自主的に学習する習慣を高める。基礎学力調査(9月実施分)の1日あたりの学習時間1時間程度以上の割合1年35%以上、2年25%以上[1年31.6%、2年22.1%]</p> <p>カ・校内読書感想コンクールの継続実施。図書委員の活動を年間20回以上[20回]。図書室の活用を奨励</p> <p>キ・学力向上委員会や教育課程委員会等において教育課程および評価方法の深化を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・職員会議等、様々な場面でめざす学校像とともに授業力の重要性を共有した始業式の式辞やPTA総会時の挨拶でも経営計画に触れ、生徒や保護者にも発信した。授業アンケート結果、第1回・第2回の全体の平均ポイントが3.29であり、昨年より上昇させた。学校教育自己診断結果とともに、授業力の向上が伺える。(○)</p> <p>・学力向上委員会を軸とし、貝塚南スタンダード、国際バカロレアの学習者像、OECDのキーコンピテンシー、Learning Compass2030などの一部資料を参考に検討した。(○)</p> <p>イ・学力向上委員会が軸となり相互授業見学週間を設定するなど、授業力の向上に努めた。今後も継続させたい取り組みである。年間延べ(54)回であり目標に達しなかった。(△) 研究授業は(5)回であり目標に達した。(○) 授業観察は校務の多忙化等により目標に達していないが、学校教育自己診断や授業アンケート結果により概ね授業力の向上が伺える。</p> <p>ウ・授業観察(年間2回)後の授業観察シートや任意ではあるが分析シートの作成による振り返り、目標設定面談での意識づけなどにより授業力への意識の高まりが感じられる。学校教育自己診断(生徒)の「授業が分かりやすい」の肯定的回答が82.4%であり、目標を大きく上回った。(◎)</p> <p>エ・ICTが効果的に活用できるようcc委員会(ICT活用向上のための委員会)が軸となり短時間ではあるが職員会議などにて効果的な研修会を実施した。学校教育自己診断(生徒)の「視聴覚教材やICTが効果的に活用されている」の肯定的回答が86.9%であり、目標を上回った。(○)</p> <p>オ・ICTなどを効果的に活用し主体的に学ぶ意欲の向上に努めた。基礎学力調査の結果、1日あたりの学習時間1時間程度以上の割合が1年(21)%、2年(18)%であり、目標には達していない。授業以外の学習時間の確保について更に研究を深めたい。(△)</p> <p>カ・大阪府青少年読書感想コンクールに460名の生徒が参加した。また、行事活動部(図書館部門)が軸となり空想科学図書館通信を定期的に配信するなど図書館活用の奨励と読書活動の推進に努めたが生徒図書委員会の活動は3回にと止まった。今後、生徒図書委員会の活動時間確保のため研究を深めたい。(△)</p> <p>キ・学力向上委員会を軸とし、スクール・ミッション、スクール・ポリシーの策定に努めるとともに、教務部などを軸とし、観点別学習状況の評価の充実に努めた。(○)</p>

## 府立貝塚南高等学校

2 夢と希望を持つ生徒育成	<p>(1) 生徒の希望する進路の実現 ア 3年間を通して進路指導に取り組む</p> <p>イ 生徒情報の共有</p> <p>ウ 計画的な講習の実施</p> <p>(2) コミュニケーション能力の育成 ア 協同的な学びや発表機会の充実</p> <p>(3) グローバル人材の育成 ア 国際理解教育の推進</p>	<p>(1)</p> <p>ア・3年間を見通した進路指導計画を作成、生徒、保護者とも共有し都度キャリア発達を促す。・進路便りの発行など保護者との情報共有にも努める。</p> <p>イ・定期考査、基礎学力調査などの結果から生徒の学力推移を分析し、学習支援クラウドサービスを活用するなど学年、教科、分掌間で情報共有し進路指導に活かす。</p> <p>ウ・進路目標達成に向け、教科、分掌、学年の連携を深め進学や就職のため多様なニーズに対応できる説明会や講習等を計画、実施する。</p> <p>(2)</p> <p>ア・各授業、HR、総合的な探究(学習)の時間、学校行事などを通じて、班活動の実施や生徒が発表する機会を増やし論理的思考力、探究力、表現力を育む。</p> <p>(3)</p> <p>ア・国際交流、SDGsの視点を踏まえた授業や、HR、「総合的な探究(学習)の時間」、特別活動等の実施及び関係機関と連携し異文化に触れる機会を確保する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・HR等を活用した学年全体での取り組み(外部講師による講演を含む)を昨年並みとする。[R3 1年6回2年7回、3年12回]</p> <p>イ・学校教育自己診断(保護者)の「将来の進路や職業について適切な指導」の肯定率65%以上[69%]。 ・学校教育自己診断(生徒)の「進路に関する情報が十分提供されている」の肯定率80%以上[87%]</p> <p>ウ・進学講習は全体で100回以上[376回]を実施。教育支援クラウドサービスによる学習動画、WEBドリル等の活用を加えて、より個人の状況に合わせた指導を進める。</p> <p>(2)</p> <p>ア・学校教育自己診断(生徒)の「自分の考えをまとめたり、発表したりする授業がある」の肯定率70%以上[78%]</p> <p>(3)</p> <p>ア・学校教育自己診断(生徒)の「授業や行事で国際理解について学ぶ機会がある」の肯定率60%以上[63%]</p>	<p>(1)</p> <p>ア・教育支援クラウドサービスなどを有効に活用し、生徒や保護者に対して教育情報の発信、共有に努めた。今後もよりタイムリーな情報提供と関係機関との連携をより深め、すべての生徒の自己実現に努めたい。 ・HR等を活用した取り組み1年7回2年8回、3年15回であった。学校教育自己診断の結果より内容の充実が伺える。(○)</p> <p>イ・学校教育自己診断(保護者)の「将来の進路や職業について適切な指導」における肯定的な回答は70.5%であり目標を上回った。(○) ・学校教育自己診断(生徒)の「進路に関する情報が十分提供されている」の肯定的回答は92.0%であり目標を大きく上回った。教育情報の提供をますます充実させすべての生徒の自己実現に繋げたい。(◎)</p> <p>ウ・コロナ禍ではあるが、関係機関と連携した進路関係の取り組みは計画通り実施することができた。特に、近畿大学から講師を招いた講座の開催やキリスト教短期大学との連携協定を締結するなど高大連携を深めることができた。今後も個々のニーズに対応した進路指導を実践したい。 ・進学講習は全体で104回の実施であった。(○)</p> <p>(2)</p> <p>ア・貝塚南サミット(校内プレゼン大会)の継続や外部機関が主催するプレゼン大会やビブリオバトル大会に有志が参加するなど、探究的に学ぶ機会の奨励に努めた。今後もグローバルな視点からの情報収集や課題発見解決能力、論理的思考力、表現力、探究力等を育む機会の確保に努めたい。学校教育自己診断(生徒)の「自分の考えをまとめたり、発表したりする授業がある」の肯定的回答が80.9%であり目標を上回った。(○)</p> <p>(3)</p> <p>ア・大阪国際交流財団との連携で1年生が10/13、2年生が10/20に講師を派遣いただき異文化について学ぶ機会を確保した。8/8には2年生有志16名、3年生有志1名が大阪府実践的英語体験推進事業に参加した。11/17には1年生有志12名が台湾とのWEB交流を体験した。R5.2/14には貝塚市青少年教育課との連携でアメリカ、カルバー市より高校生(4~5名)を受け入れ予定である。学校教育自己診断(生徒)の「授業や行事で国際理解について学ぶ機会がある」の肯定的回答が82.4%であり目標を大きく上回った。(◎)</p>
3 安全安心で魅力のある学校づくり	<p>(1) 生徒の規範意識の醸成と支援体制の充実 ア 子ども理解(アセスメント)力を充実させ、生徒の規律性を育む。</p> <p>イ 教育相談・支援体制の充実</p> <p>ウ 互いの違いを認め合い、「共に生きる」精神を育成する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・全教育活動を通して生徒理解に努め、正確な生徒情報の共有を図ると共に、成長や支援ニーズのアセスメントとそれに基づくプランニングを充実させ登校指導や遅刻、服装、頭髪指導などより効果的な規律指導を行う。</p> <p>イ・SC、SSW、関係機関などとの連携を強め、個に応じた支援の充実を図る。</p> <p>ウ・自尊感情と多様な個性、ともに生きる社会を理解できる人権教育を推進する。 ・いじめ事象の発生・深刻化を防ぎ、いじめを許さない生徒を育成する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・学校教育自己診断(職員)の「教員間での生徒に関する情報共有」の肯定率90%以上[88%]。 ・生徒指導マニュアルを充実させる。 ・年間述べ遅刻回数2,000回以下。[1,430回(1月末)]</p> <p>イ・学校教育自己診断(生徒)の「悩みごとや相談ごとを聞いてくれる」の肯定率70%以上[82%]。 ・就学支援会議、ケース会議の開催。</p> <p>ウ・学校教育自己診断(生徒)の「人権の大切さについて学ぶ機会」の肯定率80%以上[89%] ・学校教育自己診断(生徒)の「先生はいじめに真剣に対応」の肯定率80%以上。[83%]</p>	<p>(1)</p> <p>ア・学校が抱える課題と現代の特徴について全教職員で情報を共有するとともに、福祉的(SSW)や法的、危機管理の視点や成長と発達の観点からのアセスメントとプランニングの重要性を訴え、組織での対応に努めた。今後もチームで働く力を高めたい。・学校教育自己診断(職員)の「教員間での生徒に関する情報共有」の肯定的回答が88.9%であり目標に達しなかったが教職員におけるSSWの視点に立ったアセスメント力の向上が伺え、昨年度より若干、ポイントの向上が伺える。今後も生徒理解に努め、より効果的な指導に繋げたい。(○) ・生徒指導の重点目標を示すとともに、学力保障に繋げる謹慎課題を作成するなどマニュアルを充実させた。(○) ・遅刻回数が1483回【12/23】、年間延べ2067回であり目標に達しなかった。今後より生徒理解に努め遅刻回数の減</p>

## 府立貝塚南高等学校

<p>(2) 特別活動を通じ、豊かな高校生活を実現させる</p> <p>ア 部活動入部率の向上と部活動の活性化</p> <p>イ 学校行事の活性化</p> <p>(3) 保護者との連携および環境の整備</p> <p>ア 保護者との連携</p> <p>イ 美化活動等の環境整備</p> <p>ウ 防犯および防災、新型コロナウイルス対策の充実</p>	<p>(2)</p> <p>ア・新入生対象の部活動紹介や体験入部を通じ、部活動入部率の向上と部活動の活性化を図る。</p> <p>イ・郊外学習、体育祭、文化祭などの内容について検討し、より充実させる。</p> <p>(3)</p> <p>ア・日常的に家庭との連絡を充実させ、協同にて生徒理解に努め、最適な支援に努める。</p> <p>イ・環境美化への意識を高め清潔で整備された教育環境を維持する。</p> <p>ウ・「防犯及び防災計画」、新型コロナウイルス対策の内容を周知し、危機管理意識を向上させる。</p>	<p>(2)</p> <p>ア・1年生全員の体験入部を継続し部活動加入率 55%以上[58.7%]</p> <p>イ・学校教育自己診断(生徒)の「文化祭は楽しく行えるよう工夫されている」の肯定率 70%以上[82%]。 ・「体育大会は楽しく行えるよう工夫されている」の肯定率 60%以上[78%]。 ・学校教育自己診断(生徒)の「学校へ行くのが楽しい」の肯定的回答 80%程度を維持[80%]。</p> <p>(3)</p> <p>ア・学校教育自己診断(保護者)の「家庭への連絡や意思疎通を積極的に行っている」の肯定率 75%以上[79%]</p> <p>イ・学校教育自己診断(生徒)の「校舎内外の環境整備、美化」の肯定率 50%以上[59%]。 ・保護者との連携による美化活動の継続[0回]</p> <p>ウ・学校教育自己診断(職員)の「事故事件に迅速、適切に対応」の肯定率 85%以上[70%]。</p>	<p>少に向かいたい。(△)</p> <p>イ・SC、SSW、地区の支援教育サポート教員などとの連携で定期的にケース会議を開催するなどし、個に応じた支援の充実に努めた。就学支援会議を(3)回、ケース会議を(3)回開催した。(○)</p> <p>・学校教育自己診断(生徒)の「悩みごとや相談ごとを聞いてくれる」の肯定的回答が 84.5%であり目標を上回った。(○)</p> <p>ウ・LGBTQ・障がい理解・異文化などについて当事者よい講演いただき共生社会の意識の醸成とともに人権教育の充実に努めた。同時にいじめ問題への法的対応について教職員間にて理解を深め、組織対応に努めた。学校教育自己診断(生徒)の「人権の大切さについて学ぶ機会」の肯定的回答が 91.6%であり目標を上回った。(○)</p> <p>・学校教育自己診断(生徒)の「先生はいじめに真剣に対応してくれる」の肯定的回答が 86.7%であり目標を上回った。(○)</p> <p>今後も教職員がより人権感覚を磨き「Well-Being」な学校づくりを加速させたい。</p> <p>(2)</p> <p>ア・学校生活を充実させるため、部活動の活性化に努めた。今後も国の動きや働き方改革の基本方針を勘案しながら推進したい。部活動加入率が 63%であり目標を上回った。(○)</p> <p>学校全体の士気を高める、同窓会との連携にて設置した懸垂幕などの影響も勘案できる。</p> <p>イ・学校行事については、命と安全を守ることを最優先し「どうすれば実施可能か」を生徒、教職員、関係機関にて知恵を寄せ、周囲の状況を勘案しその活性化に努めた。特に体育祭においては応援団組織を新設した。学校教育自己診断(生徒)の「体育大会は楽しく行えるよう工夫されている」88.3%であり目標を大きく上回った。(◎)</p> <p>・学校教育自己診断(生徒)の「文化祭は楽しく行えるよう工夫されている」の肯定的回答 84.2%であり目標を上回った。(○)</p> <p>・学校教育自己診断(生徒)の「学校へ行くのが楽しい」の肯定的回答 84.6%であり目標を上回った。(○)</p> <p>(3)</p> <p>ア・教育支援クラウドサービス等、ICT を有効活用し教育情報等を積極的に発信し保護者との連携協力を努めた。今後も連携を深め、生徒の自己実現に繋げたい。学校教育自己診断(保護者)の「家庭への連絡や意思疎通を積極的に行っている」の肯定的回答が 77.5%であり目標を上回った。(○)</p> <p>イ・保護者との連携による校内美化活動(11/12)実施や保健部による定期的な点検などにより美化意識の醸成に努めた。学校教育自己診断(生徒)の「校舎内外の環境整備、美化」の肯定的回答が 65.7%であり目標を大きく上回った。(◎)</p> <p>ウ・基本的な感染防止対策を校内巡視や校内放送、教育支援クラウドサービスなどを活用し適時周知に努めた。防災避難訓練においては校長が①災害発生時の心得②日常よりの備え③複合災害などについて講和を行い防災意識の醸成に努めた。また、関係機関と連携し組織力にて様々な事象への対応に努めた。学校教育自己診断(職員)の「事故・事件に迅速・適切に対応」の肯定的回答が 77.8%であり目標には達しなかったが、重大事象へは教職員が一致団結し臨機応変、スピーディーな対応に努め昨年度より肯定率を高めた。(○)</p>
---	---	--	--

## 府立貝塚南高等学校

<p>4 地域・保護者と連携した学校づくり</p>	<p>(1) 広報活動の活性化 ア 学校 Web ページ、ブログによる情報発信  イ 学習支援クラウドサービスによる情報発信</p> <p>(2) 地域との連携 ア ボランティア活動の継続発展 イ 地域の学校等との連携</p> <p>(3) 保護者への進路情報の提供 ア 保護者向け進路説明会の実施 イ 保護者への進路情報の積極的発信</p>	<p>(1) ア・広報委員会が中心となり、オープンスクール等を継続すると共に、学校 Web ページやブログの情報更新を活発に行い開かれた学校づくりをより推進する。  イ・学習支援クラウドサービスを有効に活用し、よりタイムリーに保護者などへの情報発信を行う。</p> <p>(2) ア・KEYS（貝塚警察署との連携）等ボランティアの継続実施および内容の充実  イ・近隣の保育園での保育体験実習や防災避難訓練時の連携の継続及び部活動等を通じた地域との連携を充実させる。</p> <p>(3) ア・保護者向け進路説明会の内容を充実させ、保護者が参加しやすい説明会を企画する。  イ・進路だよりなどの配布とともに、学習支援クラウドサービスなど、ICT をより有効に活用し保護者などへの情報発信を充実させる。</p>	<p>(1) ア・様々なブログの更新合計、年間100回以上[113回(3/15)]。 ・同窓会等との連携で学校 Web ページの刷新を図る。 ・学校説明会開催を継続させる。  イ・保護者懇談等を通じて、すべての保護者の登録を確認する。</p> <p>(2) ア・KEYS の活動を継続して実施する。[4回]。その他ボランティア活動を推進する。  イ・保育体験実習を継続する。[5回] ・防災避難訓練への協力を継続する。 ・部活動等で中学校や地域との連携した活動を維持する。[中学校2回 地域3回]</p> <p>(3) ア・学校教育自己診断(保護者)の「学校は将来の進路や職業について適切な指導を行っている」の肯定率60%以上[69%] イ・学校教育自己診断(保護者)の「進路に関しての情報提供」の肯定率60%以上[66%]</p>	<p>(1) ア・学校案内やHPの刷新、生徒作画による広報グッズの作成、様々なブログの積極的な更新、学校説明会の開催などにより、開かれた学校づくりに努めた。 ・校長ブログ(63)回スクールライフ貝塚南ブログ(55)回合計(118)回の更新であった。(○) ・学校説明会は昨年並みに(3)回開催した。(○) ・懸垂幕の贈呈や作画生徒へ図書券を進呈いただく等、学校活性化にむけ連携に努めた。(○)  イ・教育支援クラウドサービスへの登録は100%を維持している。学校教育自己診断(保護者)の「教育情報の提供に努力している」の肯定的意見は72.7%であり昨年度の72%を上回った。(○)</p> <p>(2) ア・地域に信頼される学校づくりとボランティア意識の醸成のため地域連携の充実に努めた。今後も更に発展させ地域に根ざした学校をめざしたい。10名の有志生徒が貝塚警察より委嘱を受け、KEYSの活動を6回実施した。(○)  イ・近隣保育園での保育体験実習を6回実施し継続させた。(○) ・11/24には保育園の避難訓練に協力し地域ぐるみで防災意識を醸成させた。本年度は3年生生活文化選択生徒も参加した。(○) ・中学校との合同練習会を71回実施した。吹奏楽部が岸和田カンカン吹奏楽フェスタや水間観音駅夕涼み会に参加し地域の活性化に貢献した。(2回)また、女子バスケットボール部が貝塚市ミニバスケットボールの練習に参加し小中学生と交流を深めた。(1回)。(○)</p> <p>(3) ア・懇談期間を活用しての説明会の開催や学習支援クラウドサービスなどを活用しての日常的な教育情報の提供により生徒たちの自己実現に努めた。特に、本年度はキリスト教短期大学との連携協定の締結や近畿大学による講座の開催など大学との連携強化にも努めた。学校教育自己診断(保護者)の「学校は将来の進路や職業について適切な指導を行っている」の肯定率は70.5%であり目標を上回った。(○)  イ・学校教育自己診断(保護者)の「進路に関しての情報提供」の肯定的回答は62.6%であり昨年度よりやや下降したが目標はクリアした。今後ますます研究を深めより効果的な情報提供に努めたい。(○)</p>
-------------------------------	---	---	--	---

## 府立貝塚南高等学校

<p>5 教職員の資質向上と意識改革</p>	<p>(1) 個々の教員が学校運営に参加する意識をもって業務に当たる。 ア 教員間での情報共有を充実させるなど、チームで働く力を育み組織目標の達成を行う。 イ ICT 機器を活用し校務の効率化を図る ウ 危機管理体制の充実</p> <p>(2) 実効ある教職員研修の実施と相互授業見学や勉強会の充実、及び外部実施研修への積極的参加を奨励し学び続ける教職員を育成する。 ア ニーズに合った教職員研修の実施 イ 他校への授業見学等や研修会への参加</p> <p>(3) 働き方改革の取り組み ア 校務の見直し及び効率化 イ 働きやすい職場環境整備 ウ 安全衛生委員会の充実</p>	<p>(1) ア・口頭や ICT を併存的に活用し、よりタイムリーに教育情報の共有を図り同僚性を高め、学校力の向上に努める。 イ・GIGA スクールサポーターや外部人材、教員相互の支援体制を充実させ教職員の ICT 活用能力の向上に努め、校務の効率化に繋げる。 ウ・危機管理に対する様々なガイドラインの精読を日々喚起するなどし教職員間における危機管理意識の醸成を図る。</p> <p>(2) ア・教職員の資質向上をめざした教職員研修の実施と、教員相互における勉強会の実施 イ・他校への授業見学や研修会等への積極的な参加を奨励する。</p> <p>(3) ア・ICT の有効活用、校務分掌や委員会組織のスクラップ&amp;ビルドなど「Society5.0」時代に対応できる学校組織の刷新を検討する イ・職場環境を整備すると共に、支え合う意識を醸成し温かい職場環境の構築をめざす。 ウ 各週 1 回の提示退庁日に加え、月 1 回の定時退庁日を設定し、放送にてアナウンスするなど定時退庁を促す。時間外超過勤務者とのヒアリングを充実させる。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断(職員)の「校務に関する情報共有ができている」の肯定率 70%以上[67%]・その他、組織目標の共通理解を図り、教職員の学校運営への参加の意識を高める。 イ・学校教育自己診断(職員)の「ICT 機器や校務処理システムの活用により校務の効率を図ることができた」の肯定率 85%以上[88%] ウ・学校教育自己診断(職員)の「個人情報保護の観点から、生徒の個人情報に関する管理システムが確立している」の肯定率 80%以上[79%]</p> <p>(2) ア・教職員研修 10 回程度[7 回] ・勉強会 10 回程度[16 回] イ・他校への視察を 2 回以上[2 回]行い、校内での伝達を行う。</p> <p>(3) ア・分掌の統合など、校務の効率化のため検討をすすめる。 イ・ストレスチェック結果における職場のサポートを前年度より改善させる。【115】 ウ・時間外超過勤務者の年間累計数を減少させる。[9 名、2/末]</p>	<p>(1) ア・ICT と口頭を併存的に活用し、スクール・ミッション作成に向けて、中央教育審議会答申の一部や校長研修後の報告など教育情報の共有を図り、学校力の向上に努めた。今後もより最適な方法でよりフレッシュな教育情報の提供に努めたい。学校教育自己診断(職員)の「校務に関する情報共有ができている」の肯定的回答が 75%であり目標を上回った。(○) イ・CC 委員会が 6/23 に職員会議において短時間での研修を開催するなど ICT のより効率的な活用に努めた。学校教育自己診断(職員)の「ICT 機器や校務処理システムの活用により校務の効率を図ることができた」の肯定的回答が 83.3%であり目標に達しなかった。今後外部人材や相互による支援体制を整え校務の効率化に繋げたい。(△) ウ・校長研修後の報告、職員朝礼や職員会議でのアナウンス、共有ホルダーにあるガイドライン精読の指示などにより危機管理意識の醸成に努めた。今後も適時、法的対応の理解を含めた注意喚起を行い危機管理意識の醸成に努めたい。学校教育自己診断(職員)の「個人情報保護の観点から、生徒の個人情報に関する管理システムが確立している」の肯定率が 77.8%であり目標に達しなかった。今後研究を重ね、更なる充実に努めたい。(△)</p> <p>(2) ア・教職員研修などを充実させ教職員の資質向上に努めた。今後も知名度のある講師の精選とともに、タイムリーなテーマでの研修を実施し教師力の向上に繋げたい。職員研修 6 回、学年集会型 4 回、HR 型 1 回の合計 11 回の実施であった。教職員のみでの研修における振り返りではアンケートを実施したところ概ね高い満足度が確認でき効果的な研修会であった。(○) ・教員相互による勉強会は初任者研修会 11 回、CC 委員会 1 回、学力向上委員会 6 回、学力向上委員会が軸となる教員研修会を 4 回、初任者による研修報告 1 回、リーダー養成研修参加者による報告を 1 回開催した。今後も引き続き、教員相互による勉強会等を継続させ教師力の向上に努めたい。(○) イ・他校への視察は 1 回 2 名の実績であり目標に達していないが、コロナ禍であり積極的に奨励できなかった。(△)</p> <p>(3) ア・委員会組織についてのスクラップ&amp;ビルドは進行しつつある。分掌などについてはスクール・ミッションの策定に連動させるとともに働き方改革の動向などを勘案するなど、校務の効率化のため慎重に検討を勧めたい。(○) イ・互いをリスペクトし支え合う組織体制の確立に向かった。総合健康リスクが【109】となり昨年度【118】より減少した。職場のサポートについても【111】となり昨年度【115】より減少した。同僚性やチームで働く力の向上に重点を置き、更なる職場環境の整備に努めたい。(○) ウ・年間行事予定に定時退庁日を記載、ヒアリングの充実、支え合う組織体制の確立などにおいてその縮減に努めた。時間外超過勤務者の年間累計数が 46 名となり昨年度より大幅に増加した。昨年度より感染症の状況も緩み、部活動の活動時間の増加が大きな要因と考えられる。引き続き、働き方に対する教職員の意識改革に努めるなど様々な方策を講じてその縮減に努めたい。(△)</p>
------------------------	--	--	--	--